

会派代表質問

市全体で進める戦略的投資の考え方  
子ども中心のまちづくり推進へ向け

自 民

斉藤 完育 議員



問 人口減少の局面では財源の選択と集中がこれまで以上に重要です。その中で子育て・教育施策は費用対効果が大きく、自治体の将来を左右する最大の投資とも言われております。大網白里市がどの分野に力を入れていくのか、明確な戦略が問われる部分だと思えます。そこで、市長に伺います。子育て・教育施策を財政戦略の中でどのように位置づけているのか、政策の優先度、そして将来を見据えたビジョンを伺います。

市長 本市におきましても、人口減少や少子高齢化に起因して、多様な課題が発生をしてくていることから、「住みたい・住み続けたいまち」の実現に向けて、人口減少、少子高齢化に向けた効果的な施策について、重点的かつ横断的に展開していく必要があると考えております。その中でも子育てや教育施策へのニーズ等、重要度は高いと感じておりますことから、将来を考え戦略的に取り組むべき施策の一つであると認識をしております。

このことから令和7年3月に策定した第3期総合戦略においては、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を実現することを基本目標に掲げたところでございます。また、現在、策定中の第6次総合計画後期基本計画におきましても、重点施策の一つとして、子育て支援と教育環境の充実を位置づける予定でございます。問 ICTの教育の進展、特別支援の需要、不登校の増加など、学校現場はこれまでにない複雑な課題を抱えております。そこで伺います。教育長が描く本市教育の将来像と重視する教育理念を伺います。

教育長 本市は、教育大綱に心身と

関連質問

高野 祐二 議員



問 ふるさと納税の使途の細分化と公表について伺います。

答 具体的に活用した個別事業を公表し、寄附の成果を実感していただくよう、調査研究していきます。

問 昨今全国の自治体において、事業ごとに寄附を募るガバメントクラウドファンディング（GCF）が広がっています。GCFは単なる寄附金集めではなく、自治体が抱える具体的な課題や実現したい事業の内容・必要性を見える化し、それに共感した全国の寄附者の応援を得ることができる仕組みです。市としては、単独財源で新規事業を進めることは厳しい状況にあり、こうした現状を踏まえれば、有効な財源確保手段であると考えます。教育分野におけるICT環境整備や学習支援員・スクールカウンセラーの追加配置、農業分野ではイノシシなどの害獣対策の強化、新規就農者支援や設備導入補助など、多様な課題に対しGCFを活用する余地があると考えますが、お答え下さい。

答 今後は地域課題の解決に向けて新たに重点的かつ戦略的に取り組む事業を立ち上げる際には、財源調達の手段として活用の検討をします。

問 大網病院の決算不認定となった事は極めて重い事実です。今後どのように改善すべきかお答え下さい。

答 今後再発することのないよう、会計担当者の育成とチェック体制を見直し、再発防止を徹底するとともに、実務研修に定期的に参加し適正な執行管理に取り組みます。

市民に対し、経営状況と課題、改善の方向性を自ら開示し、市民説明会や報告会などを開催する場を設け市民の声を経営改善にフィードバックする取り組みを強く求めます。

関連質問

小金井 勉 議員



季美の森小学校は、単なる教育施設ではなく、学校行事や子どもたちの成長を見守る場として、重要な役割を果たしてきました。閉校後は、地域のつながりや交流が希薄化しないかという心配もあります。

また、季美の森小学校施設の運営費だけでも相当な費用がかかっています。閉校に伴うコスト削減の検討とともに、地域の資産としての利活用をどのように進めていくのか、早期の議論が不可欠です。単なる歳出削減でなく、教育への再投資として位置づけるべきだと考えます。

問 学校再編成計画に関する説明会が開催されたと思いますが、どのような意見がありましたか。

答 通学の安全、スクールバス、交流活動、教員配置、跡地利用等です。保護者にとっては、様々な不安があるうかと思えます。丁寧な対応をお願いします。

問 閉校後の跡地利用について伺います。

答 体育館は避難所として機能維持する考えはありますが、（仮称）統合準備委員会の立ち上げと並行して協議を進めてまいります。

問 ニーズを読んだ、未来を見据えた適切な施設のマネジメントについての見解をお伺いします。

市長 施設により特性は異なりますが、ポテンシャルを最大限に活用し、地域が主体の住みたい・住み続けたいまちづくりを実現してまいります。

季美の森小学校は、私の子どもたちを育ててもらった母校で閉校には深い思いがあり今回の質問に至りました。教育施設に限らず、公共施設全体を効率的に運用する視点、ファシリティマネジメントが重要です。未来を見据えた対応をお願いします。

個人質問

小中池公園再整備基本構想について

岡田 憲二 議員



問 検討委員会が市長に答申したのが平成30年7月20日、公園再整備基本計画検討委員会が発足したのは令和4年12月でした。答申から基本計画発足まで約4年もかかっているのは異常と言わざるを得ない。

なぜ基本計画の発足が遅れたのかその理由はなにか。

答 再整備基本構想に掲げております基本理念、基本計画の作成に当たっては経費を節減する為に外部委託を行わず、職員自らの手で作業を進める方針とした。庁内で再整備の方向性を共有するため、公園利用者との対話による調査結果などを踏まえ関係課等と意見調整を進めていく中、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、学識経験者などとの調整が円滑に進まなかったことも重なり時間を要した。

問 答弁の内容は前検討委員会に一切報告がなかった。従って前委員は皆々市に対して不信の念を募らせていた。これは行政の不作為であり、反省すべきである。基本計画を拝見したが分からないところ、気になるところがあったので質問する。第2回資料の中で、現在の土水路にコンクリート側溝を入れてほしいとあるがどの部分か。

答 小中池公園と昭和の森を結ぶ閑東ふれあいの道の土水路。令和5年6年にかけて県において整備。

問 第4回資料、スマートインターから小中池公園までの道路整備が長期20年の計画では遅すぎでないかとの質問があったが私もその通りだと思いがいがかか。

答 小中川公園を安全かつ円滑に利用いただく為にも重要だと考えている。委員の皆様からのにぎわいの創

出には早期の道路整備が不可欠であるとの意見を踏まえて整備時期を中期の10年に見直したところ。

問 第6回資料に「8億円という金額を見ると本当にできるのかなと思うが」とあるが、8億円は何を指しているのか答弁を。

答 導入施設の計画については検討委員会でも議論をし、市民の皆様の安全性や利便性の向上を念頭に置いた基本計画の方向性を維持しつつ無理のない範囲で整備を進めることが適当との整備方針に至り、親水デッキや大型複合遊具などを除外することとして施設整備全体を縮小する見直しを行ったもの。

問 第8回資料に木橋の撤去費用は2千8百万円と答弁しているが、木橋が老朽化して通行が危険として立入禁止にした後に、某業者に撤去費用は大体幾らぐらいかかるかを試算してもらったと聞いている。その業者の見積もりは3千万円とのことであったと聞く。どちらの金額が適正なのか。

答 令和5年の見積書を参考にした金額ですが2千百万円と把握している。

問 資料23ページに、道路整備としてスマートインターから小中池公園までの区間を示されているがどのような方法で整備するのか。

答 スマートインターから公園までのアクセス道路の整備手法については現時点では未定です。

この道路整備には多額の予算が必要。現行道路横、田の部分の下には小中池からの放流用の管が設置されている為拡張はできない。道路の拡張を図るならば道路に並行している小中川をボックスカルバート方式で拡張するしかない。川の整備も必要。